

東北白鳥会平成十八年度総会

◎日時 平成十八年六月七日(水)午前十時～十時四〇分  
◎場所 仙台市福祉プラザ 十一階 第一研修室

◎総会次第

- 一 開会
- 二 会歌指導 岩城 美和 先生
- 三 会長挨拶 渡谷 幸
- 四 祝 辞 来賓各位
- 五 議長選出
- 六 議 事
  - (一) 平成十七年度事業報告
  - (二) 平成十七年度収支決算報告
  - (三) 平成十七年度監査報告
  - (四) 平成十八年度事業計画(案)
  - (五) 平成十八年度収支予算(案)
  - (六) その他
- 七 閉会

\* 総会終了後、引き続き特別医学講演が行われます。

特別医学講演会

午前十一時～十二時

※講師

東北大学保健管理センター  
東北大学病院内部障害リハビリテーションシヨク科  
助教 里澤 一 先生

※演題

「苦しい呼吸と楽になる呼吸」

## 平成 1 7 年 度 事 業 報 告 書

自；平成17年4月 1日

至；平成18年3月31日

### 1、組織基盤の確立と支援組織の確保

渋谷会長を中心に組織基盤の確立に努力し、また、支援下さる方々からは温かい支援を頂き下記の活動をしました。しかし、会員の高齢化や病状の悪化もあり、会員数は減少傾向にあります。なお、山形県支部は吉田支部長の積極的な取り組みによって立派な業績を上げられました。

### 2、会報の発行

白鳥会の活動模様の報告や行事等の連絡、会員の投稿などを中心とした会報を四回発行しました。

### 3、医療情報誌の発行

医学講演会や呼吸器リハビリ教室など、最新の医療や福祉・介護に関する情報を「医療情報誌」として4回発行しました。

なお、この事業については、宮城県共同募金会からご支援を頂いており深く感謝申し上げます。

### 4、医学講演会、呼吸器リハビリ教室の開催など

#### (ア) 医学講演会

平成17年6月15日(水)東北大学助教授、渡辺彰先生の〔風邪やインフルエンザ・肺炎にどう対処するか「呼吸不全に陥らないために」〕と題して講演会を行いました。仙台福祉プラザの会場は満席となり、会員からはたくさんの質問がありました。

この他、山形市に於いて「肺の日」の講演会、仙台市に於いては「呼吸不全東北地区対策協議会」の講演などがあり、白鳥会会員も参加しました。(講演内容は白鳥に掲載済)

#### (イ) 呼吸器リハビリ教室

仙台市では呼吸器リハビリ教室を、年二回開催しました。一回目は5月～6月に、二回目は9月～10月に、それぞれ五回のコースで行い、講師の先生方の熱心な指導を受けました。各回とも定員を超える多くの参加希望がありました。(内容は白鳥に掲載済)

また、呼吸器リハビリの保険適用、及び要介護認定者のリハビリに介護保険の適用が、18年度から実現しました。これにより呼吸器リハビリを実施する医療機関の増加等が期待されます。

#### (ウ) パルスオキシメーター

仙台市では、16年度からパルスオキシメーターの給付対象を、在宅酸素療法者で障害者四級までに拡大実施しました。また、宮城県では「呼吸器障害者訓練事業」として、白鳥会がパルスオキシメーターを貸し出し、その普及・啓発を図ることとなり、宮城県内の会員(仙台市を除く)を対象に貸し出しを実施しました。

## 5, 日本呼吸器疾患患者団体連合会

(ア) 平成16年12月に会員の皆様の協力を得て、アンケート調査を行いました。学会でも関係する医療機関の協力で、アンケート調査を実施し、「在宅呼吸ケア」白書を作成しました。17年4月の日本呼吸器学会で、患者団体代表及び学会代表から発表しました。

また、学会代表の先生と患者団体代表が厚生労働省に出向き、白書を贈呈しました。白書の中から、患者が困っている問題を提起・説明しました。(渋谷会長が参加)

(イ) 平成17年10月17日に連合会の総会が行なわれ、活動状況の報告と今後の進め方などについて協議しました。

(参考) 「現在取り組んでいる事項」(12月7日要望取りまとめ)

- ・パルスオキシメーター、在宅酸素の電気代助成。
- ・障害者二級の新設。
- ・24時間在宅酸素療法者を一級に認定。
- ・介護保険の認定審査に呼吸器専門医師の参加。
- ・障害・介護の認定に、患者の日常対応力の評価を入れる。など、

(ウ) 平成18年1月7日に幹事会が行われ、新役員を決定し活動方針を検討しました。(渋谷会長が連合会の副代表に選任)

(注) 慢性呼吸器疾患対策推進議員連盟が4月18日発足。

## 6, 会員の相談・支援及び会員相互の親睦

会員からの相談などについては、関係の機関に照会するなどして回答しました。また会報への投稿などで回答を要すると思われるものについても、連絡をとって話し合いをしました。

## 7, 禁煙、バリアフリー等生活環境の改善・整備

禁煙及び分煙化は実施範囲が相当広がってきました。また学会でも積極的に取り組んおり、東北大学医学部病院では、病院構内の駐車を禁煙車に制限しました。また、禁煙治療に使われる「ニコチンパッチ」が、保険適用になりました。

## 8, インフルエンザ予防接種費用の一部助成

16年度に引き続き、17年度も助成を実施しました。

## 9, ホームページの充実

ホームページを開設しましたが、更に内容の充実に努めていきます。また、患者団体連合会及び東北ヘルスケアネットのホームページの中にも、白鳥会のページが設けられました。

## 10, その他

政令指定都市障害者福祉団体連絡協議会に参加、「在宅酸素療法者は常時酸素を吸引しなければ日常生活ができないので、全て一級に認定できるように基準の見直しを国に働きかける事」が採択になりました。その他、仙台市社会福祉協議会を中心とする障害者福祉活動に積極的に取り組みました。また上海市障害者訪日団との交流会にも参加しました。

(20)

## 平成17年度東北白鳥会収支決算書

平成17年4月1日～平成18年3月31日

## 収入の部

△印減 単位 円

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
会 費	600,000	249,000	△ 351,000	入会金、会費
賛 助 金	700,000	403,500	△ 296,500	賛助医師、他多数
寄 付 金	600,000	1,138,245	538,245	舞そめ、餌町支部会他
補 助 金	750,000	529,000	△ 221,000	県、市・県共同募金、仙 台市社協、仙身協
雑 収 入	5,000	2	△ 4,998	総会祝儀、預金利子、山 形県支部納付金
繰 越 金	958,298	958,298	0	前年度の繰越金
合 計	3,613,298	3,278,045	△ 335,253	

## 支出の部

△印減 単位 円

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
会 議 費	100,000	63,334	△ 36,666	総会、役員会
集 会 費	300,000	120,274	△ 179,726	リハ講習会、レク等
印刷製本費	1,000,000	1,013,000	13,000	会報、チラシ印刷代
通信運搬費	500,000	331,429	△ 168,571	会報発送費、切手代、 電話代
旅 費	500,000	43,700	△ 456,300	陳情、各種会合、市内 連絡等
消耗品費	300,000	177,355	△ 122,645	事務用消耗品等
備 品 費	200,000	95,050	△ 104,950	パソコン、FAX等購 入代
渉 外 費	150,000	55,350	△ 94,650	各種団体等渉外費
負 担 費	80,000	52,000	△ 28,000	各種団体への負担金、 インフルエンザ予防 助成金
事 務 費	150,000	33,986	△ 116,014	コピー代他
支 部 費	100,000	0	△ 100,000	各支部の必要経費
予 備 費	233,298	0	△ 233,298	
合 計	3,613,298	1,985,478	△1,627,820	

次年度へ繰越し(平成17年度収入額-支出額)

3,278,045円-1,985,478円=1,292,567円

## 平成17年度 特別会計収支決算書

平成17年4月1日～平成18年3月31日

収入の部  
位 円

△印減 単

科 目	金 額	備 考
積立金	6,487,407	前年度繰越金
雑収入	520	預金利子
合 計	6,487,927	次年度繰越し

### 会計監査報告書

#### ◎ 平成17年度東北白鳥会収支決算書

(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

収入の部                    3,278,045円

支出の部                    1,985,478円

差引次年度繰越金        1,292,567円

上記について諸帳簿、帳票等を監査したところ、正確に処理されていることを認め報告します。

平成18年5月10日

監事    小川    宏    印

監事    梅津   加知子   印

\*\*\*\*\*

#### ◎ 平成17年度特別会計収支決算書

(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

前年度繰越金        6,487,407円

預金利子                    520円

次年度繰越金        6,487,927円

上記について預金通帳を監査したところ、正確に処理されていることを認め報告します。

平成18年5月10日

監事    小川    宏    印

監事    梅津   加知子   印

## 平成18年度事業計画書

東北白鳥会

事業項目	内 容	備 考
組織基盤の確立と 支援組織の確保	会の活動は、会の組織基盤の整備が大事であるので、その基盤の整備に努めたい。同時に会に対する支援の確保に努めたい。	
会報「白鳥」の発行	会活動の基本である会員および協賛者との情報伝達は、きわめて大事な要素なので引き続き発行を続けていきたい。年4回発行を目標としたい。	
医療情報誌の発行	会報とともに、最近の医学、介護の情報については刻々と変化進歩を見せているので、これらをいち早く会員の皆様にお伝えするのが、会活動の義務でもあるので、出来るだけわかりやすく伝えていきたい。 なお、この発行については、共同募金会からの配分を受けている。	
医学講演会、呼吸器リハビリ教室等の開催	随時、医学講演会や、呼吸器リハビリ教室などを開催し、会員等の生活の質の向上に役立つための支援活動を展開していきたい。 なお、関連の医学学会等に積極的に参加をしていくこととする。	
日本呼吸器疾患患者団体連合会への参加、および行政への働きかけの実施	呼吸器疾患患者団体と、呼吸器学会の連合組織である連合会は、医療従事者との連携の場でもあり、積極的な参加と活動を展開していきたい。同時に地域的な展開や行政への働き方を進めていきたい。	
超党派議員連盟の発足	本年4月、国会内に超党派議員による呼吸不全の議員連盟が誕生し、われわれ患者団体の政治における拠点が確保された。積極的に働きかけをしていきたい。	
会員の相談、親睦の場を作っていく	会報や、通信の手段などで会員相互などの相談や情報の伝達などを行い、さらに会員との親睦の機会を作っていく。	
インフルエンザ予防接種の助成	予防接種の個人負担分について、今年度も引き続き助成していきたい。	
白鳥会ホームページの充実	インターネットによる白鳥会のホームページについて、昨年度から、新たなる発足として、内容等の充実を図り更新しています。 「東北白鳥会」でアクセス出来ます。	

## 平成18年度東北白鳥会収支予算書

平成18年4月1日～平成19年3月31日

## 収入の部

△印減 単位 円

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
会 費	500,000	600,000	△100,000	入会金・会費
賛 助 金	500,000	700,000	△200,000	賛助医師、他
寄 付 金	600,000	600,000	0	舞いそめ、他
補 助 金	600,000	750,000	△150,000	県・市・共同・仙身協
雑 収 入	1,000	5,000	△ 4,000	総会祝儀、預金利息等
繰 越 金	1,292,567	958,298	334,269	前年度繰越し
合 計	3,493,567	3,613,298	△119,731	

## 支出の部

△印減 単位 円

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
会 議 費	100,000	100,000	0	総会・役員会等
集 会 費	300,000	300,000	0	リハビリ講習会等
印刷製本費	1,100,000	1,000,000	100,000	会報・チラシ印刷代
通信運搬費	500,000	500,000	0	会報発送・切手・電話代等
旅 費	500,000	500,000	0	陳情・各種会合等
消 耗 品 費	200,000	300,000	△100,000	コピー用紙・事務用品代等
備 品 費	200,000	200,000	0	パソコン購入代
渉 外 費	150,000	150,000	0	各種団体等の渉外
負 担 費	80,000	80,000	0	各種団体への負担金等
事 務 費	150,000	150,000	0	コピー代
支 部 費	100,000	100,000	0	各支部の必要経費
予 備 費	113,567	233,298	△119,731	
合 計	3,493,567	3,613,298	△119,731	

## 東北白鳥会の

定期総会が行われました。

平成一八年度の定期総会が六月七日、仙台市福祉プラザにおいて開かれました。前日から降った激しい雨も、朝方にはようやく止み、出席する会員の皆様方を温かく迎えることができました。

総会には、仙身協大沼会長、国会議員、県議会議員、市議会議員、帝人、テルモ、など多くのご来賓の方々がご出席され、温かいお励ましの言葉を頂きました。

○ 挨拶、 仙台市身体障害者福祉協会、大沼 修、会長  
今日は第二十三回目の総会と伺いましたが、長い年月の活動で、役員始め会員の皆様方のご努力に敬意を表します。

私達は障害者の皆様方と一緒に、歩いていきたいと思っています。昨年は支援法ができましたが、政令・省令はまだ発表になっていませんので、対策を立てられないでいます。社会制度を保っていくには、障害者も一割を負担せよということですが、障害者にとっては大変に厳しいことであります。免除や上限補償などが決められると思いますが、私達も情報を入力し勉強し、賢い障害者として生きて行きたいと思っています。

○ 挨拶、 宮城県議会議員、中沢 幸男 先生

いま村上きみ子さんのことを思い出しています。私は本会議で「私達は何気なく空気を吸っている。しかし、その空気

を、お金を出して吸わなければ、生きていられない人がいます」と県知事に申し上げました。そして電気代の助成が実現しましたが、村上さんはその話を聞いて「天使のように、見えます」と喜ばれました。パルスオキシメーターの助成でも再三来りましたが、県の貸与制度の実施を分からずこの世を去られたと思います。

行政は、悩める人を助けることを考えねばなりません。いま社会では格差が大きくなっています。弱い人には温かい気持ちで接しなければなりません。皆さんも辛いことがあると思いますが、頑張ってください。政治家は寄付が禁止されておりチャリティコンサートチケット購入で協力するくらいしかできません。私も歌手で、施設の慰問などに協力しています。白鳥会の行事などにも、協力したいと思っています。

○ 挨拶、 宮城県議会議員 石橋信勝 先生

資料の整理をしていて、村上きみ子さんからのFAXを見つけたのですが「何時亡くなるか分からないが、精一杯頑張っています」との思いが書いてありました。

総会の資料に、超党派議員連盟が発足したことの記事が書いてありますが、村上さんと一緒に坂口厚生労働大臣や書記官を訪問したことを思い出します。国会では議員連盟が発足しましたが、宮城県議会でも皆で力を合わせ進めていきたいと考えています。



## ○ 挨拶 宮城県議会議員、遊佐 みゆき 先生

総会おめでとうございます。二三年という長い道のり、本当にご苦労様でした。国会に超党派の「慢性呼吸器疾患対策推進議員連盟」ができたこと、本当によかったと思います。私は宮城県議会での請願採択など努力してきましたが、今後皆様力になれるよう頑張ってお参ります。

## ○ 挨拶 仙台市議会議員、熊谷 善夫 先生

今日参加できない方が、たくさんおられると思います。それらの人の心を思うと、我々も努力していかねければならないと思います。

会報を見るたびに、皆さん方の活動の結集と感謝しています。会報にはたくさんさんの医療関係の記事が掲載されていますが、寄稿下さっている先生方にも感謝申し上げます。私も、白鳥会とかかわって二〇年になりますが、目標をもって支援してきました。白鳥会からは、低肺ホームをつくって欲しい電気代を助成して欲しい、パルスオキシメータを助成して欲しい等たくさんさんの要望がありました。ある程度実現したものがあります。若干の進展はありましたが、内容を検討するとまだまだ問題は残っています。行政の支援については、議員が頑張っていかなければいけないが、白鳥会も世間から理解してもらおうような運動が必要に思います。一緒に頑張ります。

(注) 国会議員の先生方は、議会との関係もあり祝電を頂き、総会には秘書の方が出席下さいました。ありがとうございます。

## ○ 総会

高橋 顧問を議長に選出し総会が進められました。

最初に大友理事から、平成一七年度の事業報告が行われ、特に会員の減少、医療情報誌の発行、医学講演会、呼吸リハビリ教室、患者団体連合会の活動、政令指定都市障害者福祉団体連絡協議会の模様などについて説明が行われました。参加会員からは、会員の減少やパルスオキシメーターの助成金などについて質問がありました。引き続き斉藤会計監事から、収支決算書報告が、梅津監事から会計監査報告が行われ、承認されました。

平成一八年度の事業計画について、超党派議員連盟の発足などについて、続いて収支予算計画の説明が行われ、承認されました。なお、会員から「総会に出席するにしても、酸素ボンベを背負ってくるが、今の酸素ボンベは重くて大変だ。もっと小型・軽量で持ち運びに便利なものが欲しい」との強い希望があり、関係の向きに要望することとなりました。

最後に渋谷会長から「白鳥会をご支援下さっている方への感謝、及び患者団体連合会や慢性呼吸器疾患対策推進議員連盟の活動状況など」についての説明があり、さらに会員の皆様に一層のご支援・ご協力をお願いし総会が終了しました。

なお、休憩の後、東北大学医学部助教、黒沢 一先生の「苦しい呼吸と楽になる呼吸」と題した講演が行われ、呼吸器に障害を持っている会員にとって、大事なことを分かりやすく説明して頂きました。この講演には、会員のほかに市民も参加しました。

## 総会を終えて

総会は一年の行事のなかで最も大切な会です

曇りながら雨の心配もなく時間通りに皆様お集まり頂きました。

三年前命の尽きるのを目前にして、紫陽花が美しいこの時期に亡くなった前会長村上きみ子さんの事を思い出さずにはいられません。前日まで出席するつもりで頑張っておられましたのに、ドクターストップがかかり止むなく欠席する事となりどれほど残念だったことでしょう。ご出席の会員の皆様も一様に同じ思いをされたことでしょう。

ご来賓の先生方も仙身協大沼会長始め県議中沢幸男先生、石橋信勝先生、ゆさみゆき先生、市議熊谷義夫先生始め衆議院伊藤信太郎、中野正志、土井亨、参議院桜井充、県議菊地文博先生の各事務所から秘書の方がご出席下さいます、当会に対してあたたかいご理解を頂き今後ともご支援下さると力強いお言葉を頂きました。

総会は岩城美和先生のご指導による会歌「明日の空へ」から始まりました。皆様も覚えてくださって口ずさんでおられました。

医学講演会をお願いしました黒沢先生は、当日午後呼吸器リハビリ教室が予定されており、お忙しい中を時間作っての講演でした。専門の知識を優しくお話し下さり、皆熱心に聞き入っておりました。

会場で先生のご指導により全員で腹式呼吸を行いました。

今まで自己流でやっていたことでもお話を聞いて理解する事の大切さが身に沁みました。

飯田 澄子

梅雨の合間でお天気の心配もなく、皆さんが足を運んで下さいました。

今年は医学講演会の講師の黒沢一先生のご都合で、十時の開会となり山形の会員さん始め遠方からお出かけの方は、早朝よりご苦労様でした。

ご来賓には仙身協大沼修会長をはじめ、県議、市議の先生方から心温まるメッセージを頂き、お励ましと勇気を頂きました。

二十三年続いた会の重みを感じながら、高齢で命を落とす会員も増え心を傷めておりますが、残された者がお互いに支え合って一日でも長生き出来ますよう頑張りましょう。

総会は議事どうり進行し十一時すぎ特別医学講演会が始まりました。

演題は「苦しい呼吸と楽になる呼吸」

腹式呼吸がいかに効果があるかというお話、腹式呼吸は最初に息を吐いてから吸う事、トレーニングは週間付けるとよい事など日常の生活に必要なお話をしてくださいました。

終了後丁度お昼時で用意したお弁当を頂きながら、お喋りもはずみ和やかな雰囲気の中、来年の再会を約束して散会しました。

松尾 貞子

平成十八年度東北白鳥会総会が、六月七日午前十時から仙台市福祉プラザ十一階第一研修室で、約六十名出席のもとに行われました。

ボランティアの高橋明子さんの司会で開会が告げられ、岩城美和先生の歌唱指導で、「明日の空へ」が合唱されました当初座ったままするのかと思っていましたら、来賓の中沢県議の提案で全員起立して合唱しました。

ご賓の挨拶は、大沼仙台市身障協会会長、中沢県議、石橋県議、熊谷市議の順に行われ、白鳥会の功績や今後の期待と励ましのお言葉を頂きました。

国会開催中のため出席出来なかった中野正志先生、伊藤信太郎先生、桜井充先生、土井とおる先生、菊地文博県議は代理の方がご出席下さいました。所用のため途中から出席された遊佐みゆき県議は、最後まで熱心に傍聴されておられました。

議長に会員の高橋さんが選ばれ、大友理事より十七年度の事業報告、斉藤会計担当より十七年度収支決算報告、梅津監事より監査報告がなされ承認されました。続いて十八年度の事業計画及び予算案の説明があり、提案どおり可決されました。

最後に、渋谷会長から御礼の挨拶があり、総会は終了いたしました。

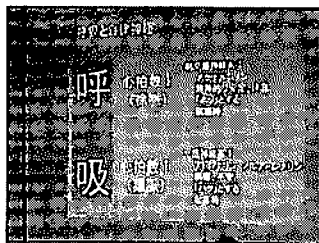
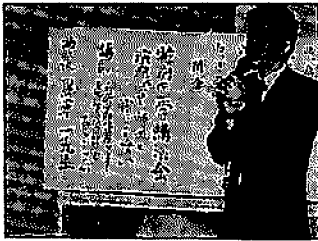
この後、若干休憩をとり、東北大学医学部助教黒沢一先生から「苦しい呼吸と楽になる呼吸」について、スライドを使っての講演があり、出席者は熱心にメモをとっておりました。

講演終了後、出席者はお弁当やお茶などで、会員同士が談笑するなど、良い雰囲気でした。

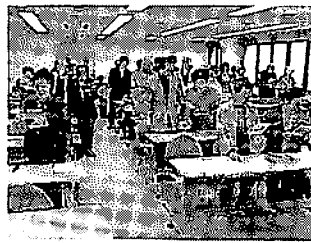
私は、平成十五年から白鳥会にお手伝いさせて頂いておりますが、総会出席は初めてであり、進行状況をみさせて頂きました。

最後に、本総会にご協力頂きました帝人在宅東日本(株)テルモ(株)に厚くお礼申し上げます。

佐々木 信一



黒澤先生の医学講演会



岩城美和先生の会歌指導

## 【呼吸不全対策議員連盟が発足されました】

さる四月十八日衆議院議員会館で超党派の呼吸不全議員連盟が発足いたしました。

かねて呼吸不全の連合会の代表である、遠山代表幹事が働きかけをしていた議員の方々による頭書の連盟が、第二議員会館の会議室で開かれ、全員意義なく当日を持って発足いたしました。

中川自民党政調会長や公明党の坂口前厚生労働大臣など八名の衆参議員の議員さんが参加され、発足いたしました。

会長には、坂口前大臣が就任し、呼吸器学会の福地先生を始め、堀井理事長、学会長など多くの先生方や、情報センター、白鳥会、全低肺の患者団体、業界団体も参加して船出をいたしました。

このことは、かねて当会でも力説したことでもあり、ようやく医者と患者そして、政治が一体となり、低肺版三位一体が、確立したこととなりました。

実際の活動はこれからですが、ようやく政治における拠点が確立したことで各種の活動展開がやりやすくなってきたものと思います。

この会の設立の原点には宮城県の大友充参議院議員が、大きな働きをされ、議員さんたちをまとめてこられたと聞いております。当日は出席ができなかったようですが、改めて、敬意を表します。

(発足式に渋谷会長、大友理事出席)